

平成24年行政事業レビューシート

(厚生労働省)

事業名	障害者自立支援機器等開発促進事業		担当部局庁	厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成22年度		担当課室	企画課自立支援振興室		君島淳二		
会計区分	一般会計		施策名	Ⅷ-1-1 障害者の地域における生活を支援するため、障害者の生活の場、働く場や地域における支援体制を整備すること				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	予算事業		関係する計画、通知等	障害者自立支援機器等開発促進事業の実施について (障発0416第6号平成22年4月16日)				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	本事業は、マーケットが小さく事業につながらない、技術開発は終了しているが、経費的な問題からモニター評価が行えない等、ビジネスモデルの確立が困難な機器に対する実用的製品化において、開発を行う企業及び障害者が連携し、障害当事者によるモニター評価等を義務付けた実証実験等を通じて、障害者に使いやすく適切な価格の機器を開発する取組に対して助成を行い、もって、障害者の自立や社会参加の促進に資することを目的とする。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	○開発を行う企業と障害者団体が連携し、モニター評価と改良開発を通じて障害者が実際に使いやすい機器を開発する。(障害者のモニター評価が可能となる仕組み、障害者の自立を支援する機器に関する有識者の助言が得られる仕組みを作る。) ○開発された技術とモニター評価の手法や結果については、デモンストレーションなどにより開発の成果を公表して、機器の普及促進を図る。							
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託・請負 <input checked="" type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
	予算の状況	当初予算		430	360	300	250	
		補正予算						
		繰越し等						
		計		430	360	300	250	
		執行額		415	174			
	執行率(%)		97%	48%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	障害者の自立を支援するための機器を実用的製品化するためには、障害当事者のモニター評価、試作機の改良開発を繰り返し継続する必要があるため、成果指標を示すことはできない。		成果実績		—	—	—	—
			達成度	%	—	—	—	
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	対象テーマによる公募方式により平成23年度は開発テーマとして21テーマを採択。		活動実績 (当初見込み)		—	15	21	—
					—	(9)	(10)	(8)
単位当たりコスト	8,286(千円/テーマ)		算出根拠	単位当たりコスト=執行額/採択開発テーマ数 =174百万円/21テーマ				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	障害者自立支援機器等開発促進事業	300	250					
	計	300	250					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	障害当事者からのニーズを踏まえ採択テーマを絞り、実用的製品化を図っている。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	障害者基本計画では、福祉用具の研究開発・普及促進に取り組むこととされており、障害者の社会参加の促進に寄与する製品については、中小企業を中心に開発しているため、普及促進するには国の一定の助成が必要である。
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	財務省からの指摘により、補助率を10/10から1/2相当額に変更したために、平成23年度の不用率が大きくなっている。
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	外部専門家による評価検討会において採択テーマを選定している。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	補助対象経費の1/2相当の金額の補助となっている。
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	事業内容とその経費については、外部の検討委員により厳密にチェックされるとともに、実施要綱においても事業に必要な経費のみ計上することができることとしている。
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	障害当事者からのニーズを踏まえ採択テーマを絞り、実用的製品化を図っている。
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	補助率が1/2相当額に引き下がっていなければ、平成23年度においても、予算額満額の執行となる程度の実績である。
	○	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	中小企業技術革新挑戦支援事業においては、探索研究・実証実験(F/S)段階の者への補助であり、本事業はその後の製品化に向けた事業への補助であり、適切な役割分担となっている。
		※類似事業名とその所管部局・府省名	中小企業技術革新挑戦支援事業 中小企業庁
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	実用的製品化された製品は、障害者のニーズを踏まえて製作されたものであり、障害者の社会参加の促進に寄与している。	
点検結果	<p>○対象となるテーマの選定においては、障害当事者のニーズを踏まえ、毎年度内容を更新しており、障害当事者の直近のニーズを反映させている。</p> <p>○開発テーマの採択に当たっては、外部の専門家による評価検討会において行っており、開発促進に必要な経費のみに助成を行い適正に執行されている。</p> <p>○中小企業庁と連携を図り、中小企業技術革新挑戦支援事業で、探索研究・実証実験(F/S)を実施した事業のうち、実用化の見込みの高い事業について当事業で製品化の支援を行う仕組みを作るなど、執行率を引き上げる方策や連携も進んでいる。</p> <p>○平成22年度採択テーマのうち2つの製品が、また、平成23年度採択テーマのうち2つの製品が既に実用的製品化され、販売も始まっているほか、今年度中にさらに1つの製品が実用的製品化の見通しとなっており、障害者の社会参加の促進に寄与する製品が着実に製品化されている。</p>		
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善	執行実績を踏まえ予算要求に反映すること		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
縮減	執行実績を踏まえ、採択予定件数を見直したうえで予算を縮減(▲50百万円)		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	0493	平成23年行政事業レビュー	0874

※平成23年度実績を記入(平成23年度確定が終了していないため、平成23年度交付決定額ベースで記載している。)

厚生労働省  
174百万円

〔国内の民間企業の開発者に対して障害者の自立を支援するための機器の開発促進に必要な経費を交付〕



【公募・補助】

A 開発者  
(国内の民間企業) 21  
社

〔障害者の自立を支援するための機器開発〕

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

A.株式会社ウオント			E.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
賃金	開発補助業務を行う臨時職員の賃金	14			
雑役務費	開発を伴わないソフト製造、音声収録	9			
委託費 (雑役務費)	会話補助装置(VOCA)の試作、ソフトウェア開発	3			
借料及び損料	開発業務用のコピー機のリース料	1			
旅費	開発者の旅費	0.6			
謝金	倫理審査、アドバイザー、モニタ評価協力者への謝礼金	0.5			
光熱水費	開発業務に係る光熱水費(業務率案分)	0.4			
その他	備品、消耗品の購入費、印刷製本費、通信運搬費、会議費	0.7			
計		29	計		0
B.			F.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使 途	金 額 (百万円)	費目	使 途	金 額 (百万円)
計		0	計		0

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の金額が支出されている者について記載する。費目と使途の双方で実情が分かるように記載)

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	株式会社ウオンツ	言語障害者向けに人間味のある声で会話補助する支援機器の改良に向けた開発	29		
2	アイシン精機株式会社	片流れ検知・軽減走行技術を用いた安全で使い勝手の良い電動車いす	16		
3	株式会社ソナール	(バス・車両用)車載型磁気ループ補聴システムの開発	15		
4	株式会社アステム	視覚障害者の日常生活支援機器(地デジ対応ラジオ【音声ガイド付き】・チューナー)	13		
5	株式会社三陽	緊急自動車の接近を視覚的にドライバーに知らせるシステム	11		
6	株式会社アシスト	高齢者・障害児・者用 車椅子「セレクト」のスポーツレクリエーション機器オプションパーツ開発	10		
7	エクセル・オブ・メカトロニクス株式会社	中・高齢の中途視覚障害者向け簡易電子メモ装置の開発	10		
8	株式会社オーエックスエンジニアリング	着脱が容易な電動ユニットを装備した電動手動兼用車いす	10		
9	株式会社長崎かなえ	安全で多機能で比較的安価な大腿義足膝継手の開発・階段昇降からランニングまで	7		
10	株式会社バンダイナムコゲームス	タブレット型情報端末を利用したトーキングエイドの開発	6		